内分泌・代謝学共同利用
共同研究拠点セミナー

新規生理活性ペプチドの探索
ーモデル生物を利用してー

講師：井田隆徳　先生　（宮崎大学IR推進機構•特任助教 ）
日時：６月１１日（火）16:00 – 17:00
場所：生体調節研究所・１階会議室

生理活性ペプチドは幅広い生理現象に深く関わっているため、その研究は科学的な重要性とともに副作用が少なく新たな薬効を持った医薬品の開発につながることが期待されています。すなわち新しい生理活性ペプチドを発見することは新たな生理機能の解明のみならず新薬の開発へとつながる可能性を秘めています。そのため、世界中の大学、研究所、製薬企業において新規生理活性ペプチドの探索が行われていますが、近年、新たな発見の報告は減少しています。私はこの状況を打破するため、モデル生物として有用なショウジョウバエにおいて新規生理活性ペプチドをまず発見し、その情報を利用してホ乳類での探索に応用したいと考えました。未だ、ホ乳類での発見には至っていませんが、ショウジョウバエにおいて興味深い新規生理活性ペプチドを5つ発見しましたので、その概略と今後の展望についてお話しさせていただきたいと思います。が、現在暗中模索状態ですので、皆様からのアドバイスが頂ければ大変ありがたいです。

Ida t, *et al.* Isolation of the bioactive peptides CCHamide-1 and CCHamide-2 from *Drosophila* and their putative role in appetite regulation as ligands for G-protein-coupled receptors. *Frontiers in Endocrinol in press.*

Ida t, *et al*. Identification of the endogenous cysteine-rich peptide trissin, ligand for an orphan G-proteincoupled receptor in Drosophila. *Biochem Biophys Res Commun*, 414(1):44-48;2011

Ida t, *et al.* Identification of the novel bioactive peptides dRYamide-1 and dRYamide-2, ligands for a neuropeptide Y-like receptor in *Drosophila. Biochem Biophys Res Commun*, 410(4):872-7: 2011

担当：代謝シグナル解析分野　小林雅樹　北村忠弘　内線 8845